

第2回 あげお未来創造市民会議 会議録

1. 日 時 令和元年6月15日(土) 9時00分～11時30分

2. 場 所 上尾市役所7階大会議室及び701会議室

3. 出席者 委員：飯塚 純 ・市倉育江 ・伊原広茂 ・大木晴夫 ・大塚常司
小川和男 ・小川早枝子・河原塚透 ・桐原陽子 ・小島 勝
小牟田健治・鈴木靖代 ・関本正弘 ・高橋雅之 ・刀根正克
中澤正俊 ・野田紘良 ・能登 貢 ・萩原和也 ・増田澄雄
的場保子 ・宮田敬生 ・矢島通夫 ・山尾三枝子・山口 直
(欠席委員 大澤サユリ・岡部千里 ・木村功一 ・竹村絵里 ・本城文夫)
事務局：行政経営課野崎課長・本郷副主幹・東海林主任・三浦主任
加藤チーム：永澤副主幹・松本主査 ・鈴木(彰)主任・大橋主任・鈴木(陽)主任
吉岡主任・野澤主任・田中主任・林主任・細井主任・石川主任
野間主任
コンサルタント：株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング

4. 次 第

〈第2回あげお未来創造市民会議〉

- 1 開会
- 2 グループ討議
・シナリオプランニング①～私たちが望む上尾の姿～
- 3 その他
- 4 閉会

5. 配付資料 次第

あげお未来創造市民会議委員名簿
あげお未来創造市民会議～第2回資料～
話し合いの進め方

6. 議事概要

〈第2回あげお未来創造市民会議〉

1 開会

事務局：皆さま、おはようございます。本日は、お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。これより、第2回あげお未来創造市民会議を始めさせていただきます。はじめに配付資料の確認をさせていただきます。

《事務局から配付資料の確認》

事務局：それでは、次第に沿って進めてまいります。まず、野崎課長よりあいさつをさせていただきます。

事務局：本日は雨の中、ご足労いただきまして誠にありがとうございます。前回の会議で、生産年齢人口の減少や財政状況の悪化といった今後の見通しについてお話ししたところ、「厳しい状況にある中でどのように議論しろというのか」といったご質問をいただきました。現在、上尾市だけでなくほとんどの自治体がこうした問題に直面しています。そのような状況の中で魅力ある地域をどうつくっていくかが重要であると考えます。市民会議ではぜひ、皆さまからこのような論点で多様なご意見を頂戴できればと思います。なお、一般的な会議は、行政側で案を作り、出席者に示した上で意見をうかがうという形式が多いとみられますが、本市民会議ではあくまでも皆さまのご意見をくみ上げていく形式を取りたいと考えています。このほか、前回の会議終了後、委員の方から「プロジェクトチームの若手職員ももっと議論に参加してはどうか」といったご意見をいただきましたので、本日は若手職員にグループ討議に参加してもらうこととしました。ぜひ実りのある2時間にしていいただければと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

2 グループ討議

《コンサルタントが「あげお未来創造市民会議～第2回資料～」 「話し合いの進め方」に基づき、本日の協議テーマや議論の手法となる「シナリオプランニング」などについて説明》

事務局：ただいまの説明について、ご質問、ご意見がありましたらよろしく願います。

委員：本日は「2軸」を選んで議論するとのことですが、どのような視点で軸を設定すればよいのでしょうか。

コンサルタント：「あげお未来創造市民会議～第2回資料～」にまとめた各グループの前回の協議内容を踏まえつつ、グループのカテゴリーにとらわれず、自由に設定いただければと存じます。他のグループと軸が重なっても問題ありません。

委員：会議録などを読む限り、各グループのカテゴリーはおおむね固まっているように思われますが、グループの専門性を発揮して議論する必要はないのでしょうか。

事務局：市民会議は大きく前半、後半に分かれており、後半の議論では各グループの専門性を活かした協議をいただくことになると思います。他方前半は、あまりグループの枠にとらわれずに自由にご協議いただきたいと思います。

《4グループに分かれ、将来の望ましい上尾の姿について議論し、発表した》

委員：Dグループでは、「教育」と「子育て」を軸に議論しました。特に「教育」については、その「特化性」「充実度」を重視しています。Dグループには子育てを経験された方やPTAの関係者もいらっしゃるので、例えば「学校ごとに特化した科目」や「多様性を認める教育」「タブレット等の教材の充実」「ALT教育のアピール」など、より良い教育の実現に向けた意見が数多く出ました。上尾市の教育現場におけるIT環境はすでに整備が進んでいる方だと思われませんが、こうした強みを積極的に発信していくことで他市との差別化にもつながるのではないのでしょうか。「子育て」については、現在全国的に広がりつつある「子どもの貧困」への対応を意識しつつ議論しました。子どもに基本的な学力を身に付けさせることさえ困難な家庭もある中、いかにまち全体で支えていくことができるかが重要だと思います。具体的には「子ども食堂等フォロー体制の充実」「福祉政策の充実」「寺子屋」「サマースクール」「集会所等活用し、自治会に協力してもらう」といった意見が出ました。また、子どもたちに個性を伸ばしてもらうため「学校でできない教育を行う」「子どもの感受性の伸長」などに関する意見が出ました。今後人口減が進む中、子育てのしやすさの基盤となる充実した教育の重要度はますます増していくのではないのでしょうか。

コンサルタント：「教育」「子育て」を軸に、「特化した教育」と「子育てのしやすさ」がともに実現された状態とはどのようなものか議論いただきました。また、理想とは真逆の状態も考える中で、「教育」「子育て」に絡む課題についても話し合っていました。

委員：Cグループでは、「シティセールス」「市民活動・コミュニティ支援」を軸に選びました。まず、シナリオプランニングにおける右上の象限ですが、「シティセールス」がうまくいけば「人口増・観光客増」につながると思います。また、「企業が増える」効果も見込め、企業活動の活性化にもつながるのではないのでしょうか。「市民活動・コミュニティ支援」に関しては、まず「市民が自分のまちをよく知っている」「市民が自分のまちに関心がある」状態が実現されていることが望ましいと考えます。そして、市民活動が活発化している状況にあっては、「自治会に若い人が入ってくる」ことも望めるのではないのでしょうか。また、「若い世代が入ることにより地域のコミュニケーションが豊かになり、地域が活性化すること」も期待できそうです。次に右下の象限ですが、これは「シティセールス」はうまくいかない一方、「市民活動・コミュニティ支援」が功を奏した場合を想定しています。具体的には、高齢化の進展が止まらず、これに対応して「見守り活動」や「ボランティア活動」が活発化することをイメージしています。このほか、左下の象限は「シティセールス」「市民活動・コミュニティ支援」がともにうまくいかなかったケースを表していますが、例えば「公共施設の負担増」「個人商店の減少」「自治会活動の高齢化」といった状況が考えられます。今後、より細かな部分まで議論を詰めていきたいと思えます。

コンサルタント：「シティセールス」「市民活動・コミュニティ支援」を2軸に選び、議論していただきました。次回は右上の象限の状態を実現し、左下の象限の状態を回避するための具体的な取り組みに踏み込んでいただければと思います。

委員：Bグループは「健康」「だれもが生き生き暮らせる」の2軸を選び、議論しました。「だれもが生き生き暮らせる」まちとは、例えば「外国人、障害者、高齢者などさまざまな人が共生できる」まちではないでしょうか。今後、外国人労働者の増加も見込まれる中、いかに彼らを迎える体制を整えていくかも重要と考えます。また、「障害者に優しいまち」の実現には、インフラなどハード面のほか、まちの人々の意識などソフト面も重視した取り組みが求められるのではないのでしょうか。「健康」「だれもが生き生き暮らせる」がともに実現されている状況においては、恐らく「スポーツを行う人が増える」ものと思われれます。各種団体活動の活性化を通じ、幼児から高齢者まで生涯にわたりスポーツを楽しむことが大切だと思います。「サイクリングやウォーキングができる道が増える」ことも重要ではないでしょうか。「健康」なまちでは「医療費減」も期待できます。企業の健康経営に絡んでは、「健診受診率が100%になる」ことも大切であるという意見もありました。他方、理想とは逆の状態を考えてみると、「ストレスを抱える人が増える」「医療費増」「労働人口減」といったネガティブな要素に関する意見が挙げられました。

コンサルタント：「健康」「だれもが生き生き暮らせる」を軸に議論いただきました。「不健康」かつ「だれもが生き生きと暮らせない」状況については、これを回避するための方策をぜひご協議いただければと存じます。本日は右上の象限を中心に話し合っていたいただきましたが、印象的だったのは「共生社会の実現に向け、まちの人の心持ちが重要」とのご意見です。次回は、本日ご意見をお出しいただいた各要素の実現に向けた具体的な取り組みについて議論いただければと思います。

委員：Aグループは「コミュニティ」「人口」を軸に議論しました。「人口」については、将来的に減少していくとの予測が立てられている中、人口増を実現することは難しいかもしれないので、「人口の減少幅を最小限に抑える」といった目標を念頭に置いています。「コミュニティ」については、まちづくりのベースとなるものであり、現在コミュニティが弱まっている地域では、いかに再生していけるかが重要と考えます。目指すべき理想的なまちのありようとは、コミュニティ力が高く、ある程度の人口も維持されている状態であり、具体的には「住民が生き生き」しており、「地域内での人のつながり」が保たれている状態をイメージしています。また、「地域の見守り体制が強化」されたり、「防災力が向上」することも期待できます。こうした理想的な状態を実現するための手段として、特に人口増に向けては「上尾ならではのもの」「おしゃれなまち」のPRや「文化的施設」の建設、「空き家の活用」「子育て支援のPR」などが考えられるのではないのでしょうか。また、コミュニティ力の強化に当たっては、昔からの住民と新たに転居してきた住民の関係づくりを通じ、自治会活動を活性化させていくことや、男性の地域参加も大切ではないでしょうか。

コンサルタント：「コミュニティ」「人口」を2軸に選び、議論いただきました。発表で印象的だったのは「人口が増えてもコミュニティ力が低下していれば、望ましい状態とは言えない」とのご意見です。コミュニティが、上尾市を下支えする基盤として捉えられているのだと思います。さて、本日は各グループが異なる軸を選択されながらも、議論の内容として重なる部分もあったかと存じます。本日の協議を踏まえつつ、次回は具体的な取り組みについて話し合いを進めていただければと思います。

3. その他

事務局：ありがとうございました。その他について、事務局からお願いします。

《事務局から、第3回会議は7月6日（土）、第4回会議は8月9日（金）の開催を予定しており、8月9日（金）は青少年センター会議室で開催を予定している旨、連絡があった。また、委員長、副委員長の選出について説明があった》

事務局：委員長を矢島様、副委員長を刀根様をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

一 同：拍手多数

事務局：それでは、委員長・副委員長からそれぞれごあいさつをお願いしたいと思います。

委員長：委員長を務めることになりました矢島です。今朝、雨の中を歩いてきて、かつての水路が道になったり、林がなくなったり、上尾のまちは大きく変わったと感じます。昔はもっと貧しいまちだったと思います。今後仮に財政状況が厳しくなるうとも、夢を描ける提案をしていきたいと思います。

副委員長：副委員長を務めることになりました刀根です。本日A～Dグループの発表を聞いて、大変参考になりました。皆さんのお知恵を拝借して、良い会議にしていきたいと思います。

事務局：ありがとうございました。

その他、皆様からご質問等はございますか。

委員：本日の会議では、上尾市民の生活を向上していくためのさまざまなアイデアが出ましたが、企業誘致や市内中小企業の活性化といった論点については、特段議論がありませんでした。今後、どのように協議を進めていくべきでしょうか。

コンサルタント：本日のテーマはより良い上尾市の「状態」についてでしたが、次回はこれを実現するための「手段」について話し合ってくださいと予定でございます。企業誘致や市内中小企業といった産業振興についても、その具体策につながるような論点はすでにお出しいただいておりますので、次回以降、ご協議いただければと思います。

4. 閉会

事務局：以上で、第2回あげお未来創造市民会議を終了します。ご協力ありがとうございました。

以上